

リニアは夢の乗り物か？

ストップリニアニュース No.29

発行：リニア新幹線を考える相模原連絡会 2015. 12. 26

相模原からリニア新幹線行政訴訟を準備

「リニア新幹線を考える相模原連絡会」は11月29日、城山公民館で70名が参加し、「ストップ・リニア！訴訟・相模原キックオフ集会」を開きました。

第1部は、藤野・牧野に住む設楽(しだら)清和さんが講演し、自分が住む直近にリニア非常口が予定され、生活が破壊される当事者として、リニア計画反対活動に参加した。たかが、20分、30分の時間短縮が必要か、他者の手を借りず、自分達の手で生活する文化、新しい暮らし方を創りだしていく代替案を示すことが必要と訴えました。



第2部は、和泉貴士弁護士が、沿線(品川区～名古屋市)住民で工事認可取り消しを求める行政訴訟を準備していると報告。リニアの必要性や環境影響評価などへの疑問を追及する。「裁判は、国民的世論を喚起する第一歩です」と述べ、市民運動の重要性を強調。反対する運動を強めて工事を遅らせることができれば、JR東海の資金面や政治の面での変化をつくり出し、事業を中止に追い込む可能性があるかと訴えました。

最後の訴えで、同連絡会の浅賀さき江代表は「裁判への参加者を広げて、世論を喚起し、この地域で築いてきた生活を守っていこう」と呼びかけました。



オープニング「和太鼓」演奏



地元物産コーナー



資料展示コーナー

「ストップ・リニア！訴訟」キックオフ集会 1都6県で開催

11月4日の川崎を皮切りに12月13日までに、1都6県の沿線(東京・神奈川・山梨・静岡・長野・岐阜・愛知)で「ストップ・リニア！訴訟」キックオフ集会が開催されました。

あらためて、JR東海の傲慢な姿勢に怒りをあらわにする人がいる一方、「裁判については、まだよくわからない」と率直な感想も聞かれました。会場では、来春提訴予定の原告・サポーター登録の呼びかけに答える参加者もありました。引きつづき、なぜ、訴訟に訴える必要があるのか、また、2014年12月に「異議申し立て」をした人しか今回の「行政訴訟」の原告になれないこと。さらに、千人の原告団での提訴が、裁判所や世論へのアピールにいかにか重要かなどについても、様々な機会に訴えていくことが求められています。(リニア訴訟事務局 建部由美子)

「ストップ・リニア！訴訟」の原告・サポーターになってください！

私たちは昨年12月16日に国土交通大臣に着工認可の取り消しを求めて異議申し立てを行いました。この申し立てに参加された方には、すでに「ストップ・リニア！訴訟」の「原告」になってくださるようお願いしています。また「サポーター」には、活動を支援してくださる方はどなたでもなれます。

ぜひ原告、サポーターになって、この訴訟を支えてください。

- ◆原告 1年目 1口 5000円(できれば複数口で)
2年目～ 1口 3000円(")
- ◆サポーター 1年目 1口 2000円(できれば複数口で)
2年目～ 1口 1000円(")

★振込先：★(郵便局)振替口座：00210-3-137262

★口座名：リニア訴訟相模原連絡会

各地域(相模原市緑区内)の状況は今・・・

住民の理解、納得を得ずして JR 東海は測量調査は許されません

11/25 と 11/29 に橋本地域の予定ルート地権者約 50 世帯を対象に市、JR 東海による説明会が“ソレイユさがみ”で行われました。

★ 参加者の怒りの声を聞いた。

そこのけ、そこのけ、
リニアが通る!!

(声) 駅至便の今の暮らし(住まい、生業など)ができる同じ条件の土地を用意できないで「どいてくれ」は、あまりにも理不尽だ!

(声) ここで長年商売をしてずっと住民でいるのになぜ、いきなりどかなきゃいかんのか!

(声) どうしてもやりたいなら、別のルートに変更しろ!

(声) 市は JR 東海と一体になって我々市民を追い出し、この町を勝手に変えよう(再開発しよう)としているのか! etc.

- 住民不在の巨額の血税を投じる「リニアまちづくり」って何なの?(一方で公共施設の値上げが春から始まるのに...)
- 全幹法をタテにした JR の横暴、強引なりニア事業は絶対にゆるされません!
- 変電所予定地の小倉では、自治会の「対策委員会」と JR 東海の担当者との話し合いがもたれています。が、「納得できる回答は少なかったと考えています。回答内容によっては何らかの対処を行うこともある・・・」としています。
- 車両基地予定地の鳥屋では、12月に谷戸地域の世帯(立ち退き対象の世帯が20数件で地域の分断が心配)を対象に、JR東海がクレーン車で事務所棟(8階建)の高さを示し、自治会館内で騒音の体験も行う予定・・・。
- 狭い生活道路に工事用車両の通行が予定されている道志地域では、10月にJR東海が代替ルート案を提示してきたが、保安林の通過や河川内の縦断など問題が多く、3案とも実現はかなり難しいようです。

リニア工事で水源地の自然はどうなる?

～野鳥の世界から見た津久井の自然～

9月19日、橋本のソレイユさがみで「野鳥の世界から見た津久井の自然」と題して、藤野にお住まいの佐藤文男さん[(財)山階鳥類研究所 研究員]を講師に学習会を開き、約80名が参加しました。



佐藤さんは、豊かな自然環境が保たれてこそ、多様な生き物が住めること、生き物への無関心が犠牲を増やしている。人と生き物の循環を強く意識し、いまの自然環境を維持しなければいけないと強調されました。講演後の第二部では、各地域(藤野、鳥屋、道志、小倉、橋本)から“リニア計画で何が起きているか”の報告と意見交換も行われました。参加者からは「佐藤さんの話しはとても心に染みた、もっと多くの人に聞いてもらいたい」「津久井の自然や橋本の現状を知ることが出来てよかった。一人ひとりがこの問題に関心を持って知らせて行かないとだめだと思ふ」などの感想が寄せられました。

◆本ニュースは8月(No28号)以降発行していなかった為、9.19学習会の記事掲載が今回となりましたことをお詫び致します。

生き物への影響甚大

トンネル掘削で水枯れも

相模原で鳥類専門家が警鐘

学習会

湘南 相模原 県央 地域

公共連絡先
00465(227)0990
00465(227)1400
00462(752)0430
00462(224)0155
00465(34)7155

神奈川新聞 2015. 9. 21

お願い

★ 活動は市民の募金で維持しています、ぜひご協力をお願いします。
郵便振替口座:00240-7-71305 口座名:リニア新幹線を考える相模原連絡会

発行者: 代表 浅賀きみ江

相模原市緑区東橋本 2-6-2

(TEL:090-4378-9257)